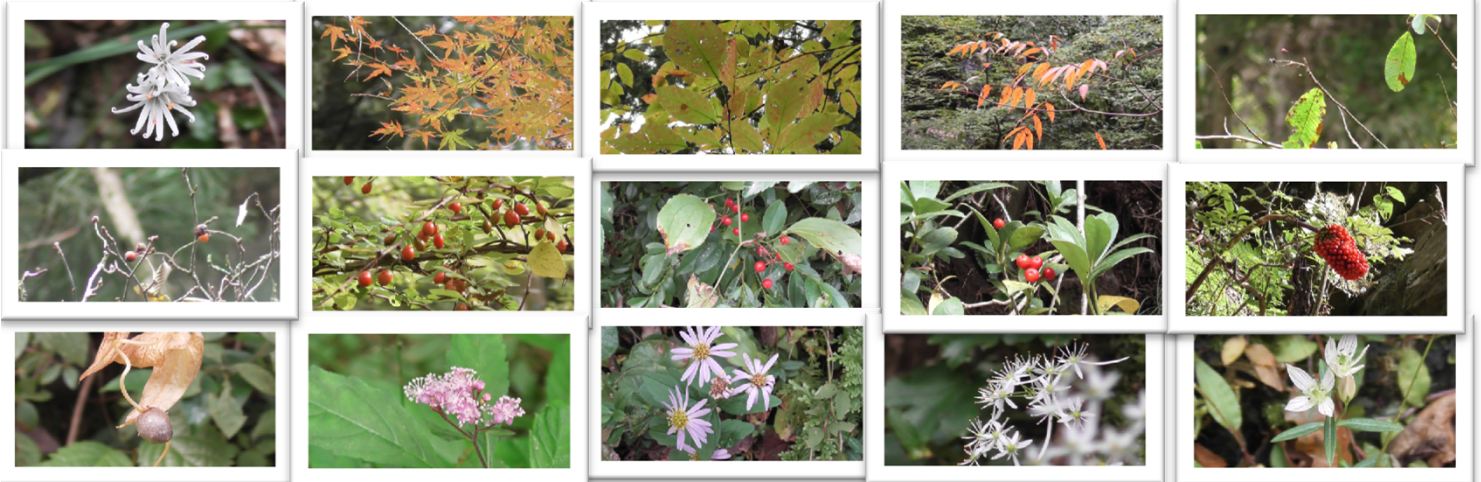


くらがり溪谷自然観察会

2024年11月

あっ…白熊! (ハグマ)

発行	2024-008
開催日	11/10(日)
開催時間	9:00~14:30
天候	曇り
参加	15名(指導員含)
主催	西三河自然観察会
担当	馬場、武田、石黒



写真左上から : キッコウハグマ、イロハカエデ、シラキ、ヤマハゼ、アワブキ、ウラジロノキ、メギ、サルトリイバラ、ミヤマシキミ、スルガテンナンショウ、ヤマノイモ、クサアジサイ、ノコンギク、ウチワダイモンジソウ、センブリ その他観察できたもの : オニルリソウ、ヒメカンアオイ 野鳥他 : ヒヨドリ、ミソサライ

馬場さんの



小部屋(Mushroom) モエギタケ

萌黄色(もえぎ色)は春に萌え出る若葉のような強い黄緑色のことを指し、この色のきのこがモエギタケです。余談ですが若草色、若葉色なども黄緑色を示し、色合いを細かく現わす豊かな感性が日本人にはあるようです。ワクサタケと言う鮮やかな黄緑色のきのこもあります。話を戻しますが、このきのこは広葉樹林の地上に群生します。くらがり溪谷でもそのように秋に現れます。落ち葉の中から顔を出すモエギタケはまるでエメラルドの宝石のようです。食用のナメコの仲間ですが神経毒を含むとの情報があり食の対象ではありません。秋のこの時の草木の紅葉と多彩なきのこの色や形。この「そこはかとない」美しい森をいつまでも我々が残していきたいものです。

(キノコの写真は馬場さん提供)



写真左上から : ヒメダイダイタケ、クサレバタケ、スキエダタケ、ナラタケ、ニガクリタケ、チャカイガラタケ、コチャダイゴケ、マゴシヤクシ 他に見られたきのこ : アイカワタケ、マユハキタケ、モエギビョウタケ、トクリツキミタケ、チシオタケ、アカカバヒロタケ、チャウロコタケ、カイガラタケ、ニクスバタケ、ハカワラタケ、シクイタケ、カワラタケ、キヌハタタケモドキ、ネトタケ、ダイダイタケ、オオミノコキタケ、ホウロクタケ、レンガタケ、シカタケ、チャミダレアミタケ

概況 : 一日曇り空のようで陽射しは望めそうにないが雨もなさそうである。紅葉祭りが始まったが気温が高く紅葉にはもう少し先の様子。入口付近の川縁ではウチワダイモンジソウが盛りと咲いており約1ヶ月遅れ、道端にも小さな白い花が点々と「あっ…白熊!」キッコウハグマの花である。昨年ほどではないが結構な数の花が見られ嬉しくなる。ホトギス(ユリ科)やウチワダイモンジソウ(ユキノシタ科)は気温の影響を強く受けるがキッコウハグマ(キク科)は陽の長さにも強く影響される(短日性)と云う事で例年並の開花。キッコウハグマ=亀甲型の葉をした白熊のような花=牛の仲間のヤクを指しその毛を使ったお坊様が使う払子のような花と云う事。ありがたいその白いヤクの毛は本来蠅や蚊を殺生しないよう払う道具で後に厄(ヤク)を払うに変化したとの事。因みにヤクの毛は南蛮渡来の財宝、徳川幕府に蓄えられていたものを官軍が接收し赤や黒に染めた軍帽で戦い明治維新を起こした。赤熊(シャグマ)は土佐藩、黒熊(コグマ)は薩摩藩、白熊(ハグマ)は長州藩だそうである。



キッコウハグマ(亀甲白熊)

次回開催 : 12月8日 (日)

初冬の森と溪谷で

テーマ : あっ…葵! (P11)

お待ちしております。

作成 11/30 石黒